

令和3年度 学校自己診断集計結果分析

大阪府立三国丘高等学校 学校教育自己診断委

回答の分析に際しては、[1]生徒、[2]保護者のアンケート結果についてA.肯定的意見の割合が85%を超えるもの、B 否定的意見の割合が25%を超えるもの、C 経年変化の大きかったものの3区分で行い、[3]教職員のアンケート結果については経年変化から分析した。さらに[1]～[3]で取り上げなかったものを[4]その他としてまとめた。

全体としては、肯定的意見が概ね70%～80%前後以上で推移している。今後も現状維持で満足するのではなく、工夫や再考を重ね、継続・発展させていく必要があると考えられる。

[1]生徒（回答数：1年290 2年281 3年272 計843）

A 肯定的意見（「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計が85%以上）

	肯定	否定
1 学校生活は楽しく、入学して良かった。	91.2%	5.5%
5 必要な進路情報の提供など、適切な進路指導を行っている。	91.6%	5.6%
6 学校生活を通じ、将来の生き方を考える様々な機会がある。	88.5%	9.1%
11 文化祭、体育祭や部活動において生徒は自主的に活動している。	95.4%	3.7%
16 生徒のプライバシーは守られている。	85.1%	7.0%
18 プロジェクタ等の映像機器を活用した授業は効果的である。	94.4%	4.0%
23 学校はGoogle Workspace(classroomなどのアプリ群)やchromebookなどのICTを活用している。	89.0%	9.2%

【分析】

1、5、6、11、18の5項目は、例年高い水準を保っている。

16に関しては、昨年よりも約5%増加し、高い水準となった。

23は今年度からの質問であるが、肯定的意見が9割近くになっている。校内のICT環境が整備され、Chromebookが一人一台配布されて活用されているためだと考えられる。今後も引き続き、生徒のニーズに応えつつ、より効果的な教育活動を模索していく必要がある。

B 否定的意見（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計が25%以上）

	肯定的意見					否定的意見				
	H29	H30	R1	R2	R3	H29	H30	R1	R2	R3
9 大学受験にあまりとらわれない学習活動にも力を入れてほしい。	49.1%	42.9%	49.4%	49.0%	50.7%	41.8%	43.2%	39.3%	38.3%	36.4%
20 土曜授業は学習効果があると思う。(1・2年) 又は、あったと思う。(3年)	36.8%	35.8%	43.8%	52.2%	52.3%	53.7%	53.7%	46.8%	36.0%	37.0%

【分析】

上記の2項目は、昨年度も否定的意見が25%を上回った。

9については、否定的意見が例年25%を上回るが、4年前に比べると5%以上減少している。その一方で、肯定的意見がさほど増加しているわけでもない。否定的意見は「もっと大学受験に対応できる学習活動をしてほしい」という意見だとも解釈できるが、以下の7、8の二つの項目で4年前と比較すると、「授業に満足している」生徒が増え、「受験勉強にもっと重点を置いてほしい」という生徒が減ってき

	肯定的意見					否定的意見				
	H29	H30	R1	R2	R3	H29	H30	R1	R2	R3
7 満足できる授業が多い。	75.9%	75.8%	76.6%	77.6%	83.2%	19.9%	19.4%	18.9%	17.7%	13.8%
8 大学受験に必要な科目にもっと重点を置いた授業をしてほしい。	71.8%	67.5%	66.9%	63.4%	66.9%	19.3%	20.1%	22.0%	23.0%	21.0%

ていることから、生徒の要望に沿った授業が行われていると考えることができる。

20については、例年否定的意見が25%を超えているが、4年前に比べると16.7%減少している。肯定的意見は4年前から15.5%増加しており、肯定的意見が初めて半数を超えた昨年度の傾向が続いている。

C 経年変化の大きかったもの

		肯定的意見					否定的意見				
		H29	H30	R1	R2	R3	H29	H30	R1	R2	R3
19	総合的な学習の時間で受講した三丘セミナーや大学見学、医療体験などは役立っている。	71.9%	71.1%	79.9%	77.0%	80.7%	19.9%	20.3%	13.1%	12.4%	10.7%

【分析】

19 は、肯定的意見が初めて 80%台に達した。コロナ禍のため医療体験は行われていないが、年間十数回の三丘セミナーで充実した講座を受講することができている。昨年度は三丘セミナーの約半数がオンラインで行われたが、今年度はすべて対面で行われたこともあって、肯定的意見が増えたのではないかと考えられる。

[2] 保護者（回答数：マークシート 1 年 82 2 年 112 3 年 72 フォーム 461 計 727）

A 肯定的意見（「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計が 85%以上）

	肯定	否定
1 お子様にとって、学校生活は楽しく、入学させて良かった。	92.7%	4.5%
2 本校の自主自立(自律)を尊重する伝統は、よく活かされている。	88.4%	4.0%
11 文化祭や、体育祭、部活動等において、生徒の自主性が発揮されている。	91.9%	3.9%

【分析】

1、2、11、関しては、昨年と同じく 85%以上となり、保護者の方々が、文武両道、自主自立、切磋琢磨を掲げる本校の教育方針を理解し、賛同してくださっていると思われる。

	肯定	否定
24 土曜授業(3年は土曜講習)は学習効果があると思う。	84.2%	8.8%
26 学校はGoogle Workspace(classroom などのアプリ群)やchromebookなどのICTを活用している。	84.3%	8.6%

【分析】

24 と今年新たに設けた 26 が 85%に近い肯定的意見を得た。26 に関しては、一昨年から classroom などを積極的に活用しているとともに、Chromebook の迅速な配布などによって ICT を効果的に活用していることが評価されたと思われる。

B 否定的意見（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計が 25%以上）

	肯定	否定
6 大学受験に必要な科目にもっと重点を置いた授業をするべきだ。	44.5%	30.2%
7 大学受験にあまりとらわれない学習活動にも力を入れてほしい。	49.0%	34.2%
22 授業参観や学校行事に参加したことがある。	37.9%	43.4%

【分析】

6、7 に関しては、毎年、肯定的意見と否定的意見がどちらも高く、大学受験に必要な科目は大切であるが、同時に受験にとらわれず、広く教養も身につけることも大切であるという保護者の意見が反映されている。本校は、学校設定科目 Creative Solutions における探究活動（SSH、SGH 含む）、授業以外では部活動、生徒会活動など様々な活動が行われており、進路実現のための勉強とその他の学びのバランスをうまくとりながら学校生活を送ることができるようなカリキュラム体制を組み、ニーズに応じている。また、22 に関してはここ数年続く新型コロナウイルス感染症拡大によって保護者が来校し、学校生活の様子を知る様々な機会が制限されているせいであると思われる。

C 経年変化の大きかったもの

		肯定的意見	
		R2	R3
22	授業参観や学校行事に参加したことがある。	64.0%	38.0%
25	スタディツアーや海外からの訪問など国際交流に関する取り組みが充実している。	75.5%	54.8%

【分析】

22、25 に関しては肯定的意見が大幅に減少したが、保護者の来校の機会が減少し海外研修が中止になっているのが原因と考えられる。

【3】教職員（回答数：34）

経年変化の大きかったもの

		肯定的意見	
		R2	R3
10	学校では、生徒指導において、家庭との緊密な連携ができています。	78.1%	91.2%
23	学校では、各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。	53.1%	70.6%
25	学校では、教職員の相互理解が十分になされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。	56.3%	73.5%
27	学校では、生徒の活動の場として、ゆとりと潤いのある教育環境が整備されている。	31.3%	41.2%
28	学校では、教員間で、授業方法等について検討する機会がよくある。	56.3%	73.5%
38	学校は、校務のICT化を推進している。	81.3%	97.1%
39	学校はGoogle Workspace(classroom などのアプリ群) やchromebookなどのICTを活用している。		100.0%

【分析】

昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で数値が大きく変動したが、今年度はそれ以前の水準に戻りつつある項目が多かった。ここでは、昨年度よりも大きく数値が伸びた項目の中でも、特に令和元年より前の水準と比べても数値が高い項目に注目した（否定的意見は大きな経年変化は見られなかったもので、肯定的意見の項目のみ記載）。

10 では家庭と綿密な連携が取れているとの回答が約 91%に上り、コロナ禍の中生徒や保護者と情報を共有しながら教員が指導にあたっているのがうかがえる。23、25、28 では、少しずつコロナ以前の状況に戻りつつある中で教員が連携して課題解決しながら学校運営に携わっている状態が反映されていると思われる。

27 は、Wi-Fi 環境の整備やトイレの改修工事などによって、教育環境がよくなってきていることを反映していると思われる。

38、39 は ICT 化が確実に進み、Classroom やフォーム、Gmail など様々な機能を用いて生徒とやりとりができるようになり、教職員がそれらを積極的に活用していることを反映している（39 は今年度から始まった質問項目となるため前年度の数値はない）。2 学期にはオンラインで終業式を実施するなど、新たな活用にも挑戦している。来年度以降も授業の改善や業務の軽減化をめざし、環境整備と活用の普及を推進する必要がある。

【4】その他

①進路指導に関する事項

進路に関する項目は例年高い数値で推移しているが、今年は生徒の肯定的意見が 91.6%に上った。昨年は新型コロナウイルス感染症拡大による休校措置、共通テスト導入など激動の1年となったが、丁寧な指導や細やかな情報提供で3年生は落ち着いて進路実現に向けて力を発揮した。今年度の3年生もしっかりと目標を見据えて努力を続けている。また、卒業生の話を聞く進路交流会や、京大キャンパスガイド、阪大ツアーの開催など、進路関連行事も少しずつ以前の状態に戻りつつある。今後とも情報を積極的に収集し、生徒の志望する進路の実現をめざして引き続き努めるとともに、自主自律の精神の涵養を重要

視する立場に立ち、情報過多や生徒が受身の姿勢とならないよう留意し、指導を行う。

<生徒回答>		肯定的意見				
		H29	H30	R1	R2	R3
5	必要な進路情報の提供など、適切な進路指導を行っている。	86.4%	88.3%	89.1%	85.4%	91.6%

②授業に関する事項

授業に対する生徒の肯定的な意見が過去 4 年連続して 7 割以上で推移していたが、今年度は 83.2%に達した。近年、教員の入れ替わりも多いことから、教科内でさらに連携し、三丘生が期待する高い質の授業を継続するべく務める必要がある。

<生徒回答>		肯定的意見				
		H29	H30	R1	R2	R3
7	満足できる授業が多い。	75.9%	75.8%	76.6%	77.6%	83.2%

③施設設備に関する事項ならびに災害対策などに関する事項

昨年度まで防災対策プロジェクトチームを中心に、災害時の対応や備蓄などについて準備を推進してきた。特に、昨年度からは防災訓練の際に危険な場所を教職員がチェックしてから生徒の非難を促すようにしている。災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、役割分担を明確にして訓練を重ねているため、教職員の肯定的意見が約 79%に達したと思われる。今後も、訓練ならびに設備管理を怠らずに持続していきたい。

<教職員回答>		肯定的意見				
		H29	H30	R1	R2	R3
26	学校では、事故・事件・災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、役割分担が明確化されている。	68.1%	65.8%	52.8%	75.0%	79.4%

④スマートフォンの使用に関する事項

生徒の携帯電話の使用時間については、昨年同様かなり多くの生徒が長い時間携帯電話を見ていることがわかる。保護者の「29 お子様のスマートフォン使用について、時間制限をされていますか。」の回答では、「していない」が約 54%となっていることから、生徒の自主性に任せているご家庭が多いといえる。生活習慣や、学習時間にも関わるので、ご家庭と情報交換しながら、成績などとも関連させ、適切に生徒に注意を促していく必要があると考えられる。

<生徒回答>			
24	1日にスマートフォンを勉強以外で使用している時間は平均してどれくらいですか	R2	R3
	2時間以上3時間未満	25.7%	25.0%
	3時間以上4時間未満	12.6%	13.5%
	4時間以上	14.0%	13.8%

⑤土曜日授業の実施に関する事項

土曜授業の実施については、生徒の肯定的意見が約 52%、保護者の肯定的意見も約 84%と比較的高いが、教職員の肯定的意見は約 15%、否定的意見が約 62%となっている。新指導要領における指導内容の改編や増加、探究活動の実施などで授業時間の確保が必要である中、部活動も含めた生徒の学校での過ごし方や、教職員の勤務についても学校全体で継続的に検討していく必要がある。